

---

第33報 平成24年3月9日

東日本大震災 災害復旧資材供給情報

## 復旧・復興工事に関わる 建設資材等の需給動向

財団法人 経済調査会

---

### 【石油製品】

中東情勢の緊迫化を背景とした原油急騰と円安によるコスト上昇を背景に、元売各社が卸価格を引き上げた。減産により市中在庫が減少するなか、流通側は売り腰を強めたため市況は上伸。また、東日本大震災で被災したJX仙台製油所は、3月中に稼働再開の見通しとなっている。

### 【ストレートアスファルト・アスファルト合材】

需要家側の値引き要求から全国的に小幅下落となったが、足元では円安・原油高からストアス価格の上昇は避けられない見通しで、先行きは強含みで推移する公算が大きい。今後、アスファルト合材メーカーでは、ストアス価格や製造及び運搬に関わる燃料コストの上昇分を価格転嫁する動きを強めるものとみられる。

### 【建築市場単価 鉄筋工事（手間のみ）】

被災地区（沿岸部）における復興需要は本格化に至っていないが、比較的被害の少なかった地区（内陸部など）では、病院や学校などの新設工事や補修工事、耐震改修工事などが増加傾向にある。慢性化している職人不足に対して、他地域からの協力体制が見られるものの、依然として需給はひっ迫しており、市況は上伸している。

### 【鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材工場の稼働状況について】

当会ホームページの「災害復旧資材の供給情報提供窓口」では、被災地への資材供給に関わる鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材各工場の稼働状況が一目で分かる地図を掲載しています。稼働状況に変更があれば、随時、情報を更新してまいりますので、併せてご覧ください。

※ 災害復旧資材の供給情報窓口 <http://www.zai-keicho.or.jp/fukkyu/index.php>

【問い合わせ先】 財団法人 経済調査会 土木第一部・土木第二部  
TEL : 03-3543-1471 FAX : 03-3543-2182

## 【ストレートアスファルト供給情報】

### ①製油所の状況について

2012/3/8確認

製油所・工場名	所在地	稼動状況	出荷状況		備考	
			陸上出荷	海上出荷		
JX日鉱日石エネルギー	仙台製油所	宮城県	×	○	×	11月7日より油槽所機能として一部出荷を再開。生産再開は3月を目標に計画。
	鹿島製油所	茨城県	○	○	○	通常通り出荷。
	根岸製油所	神奈川県	○	○	○	通常通り出荷。
コスモ石油	千葉製油所	千葉県	×	○	×	2月3日より一油種(針入度80-100)の陸上出荷を再開。
	四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	堺製油所	大阪府	—	—	—	2010年3月より生産停止。(燃料油は生産・出荷中)
	坂出製油所	香川県	○	○	○	通常通り出荷。
昭和シェル	東亜石油(株)扇町工場	神奈川県	—	—	—	2011/8/11をもって、陸上、海上出荷ともに出荷を終了。また、同日より横浜アスファルト基地から陸上出荷開始。
	昭和四日市石油(株)四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	西部石油(株)山口製油所	山口県	○	○	○	通常通り出荷。

※稼動状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼動していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」で表示。

### ②その他(今後懸念される事項等)

2011年8月11日に昭和シェル扇町工場が出荷を終了したことで、関東地区において稼動している製油所は、JXの根岸製油所、鹿島製油所の2箇所となった。代わって昭和シェルでは8月11日より横浜基地から出荷を開始。また、コスモ石油千葉製油所では、2月3日より一油種(針入度80-100)の出荷を再開した。現時点では、関東地区での供給は安定している。

また、生産拠点・油槽所の多くが被災した東北地区太平洋岸でも、出荷を再開した油槽所や出荷再開に一定のめどがあった拠点はあがあるが、依然として供給余力は大きくない。

関東地区・東北地区とも、西日本や北海道の製油所からの海上輸送による供給を余儀なくされており、海象条件の厳しい冬期を迎え、海上輸送が滞り油槽所の在庫が不足することが懸念されている。年度末の需要期を迎えたが、現在まで以前懸念されていたようなアスファルトが供給できないといった事態は生じていない。しかしながら、東日本を中心に陸上輸送用のローリー車不足といったものは継続しており、今後も、急激な需要の変化に対し、対応しきれなくなるといった可能性がゼロとはなっておらず、この先もアスファルトの安定供給・確保を図るうえでは、引き続き的確な需要予測が不可欠とみられる。

【ストレートアスファルト供給情報】

③各県(地域)への供給状況について

2012/3/8確認

地区	都道府県名	供給動向				価格動向		
		供給可否	運搬車両	運搬経路	備考	現状	先行き	変動要因
北海道	北海道	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
東北地区	青森県	△	△	△		横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	岩手県	△	△	△		横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	宮城県	△	△	△	11月7日よりJX仙台が油槽所として出荷再開。3月から生産再開予定。	横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	秋田県	△	△	△		横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	山形県	△	△	△		横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	福島県	△	△	△		横ばい	強含み	円高、原油高に転じ、先行き強含み。
関東地区	茨城県	○	△	○	6月3日鹿島石油から出荷再開。	下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野	○	△	○	コスモ石油千葉製油所では、2月3日から80-100の出荷を再開。	下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
北陸地区	新潟・富山・石川・福井	○	△	○	新潟県内の車両は不足状態。	下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
中部地区	静岡・愛知・岐阜・三重	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
近畿地区	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
中国地区	岡山・広島・山口・鳥取・島根	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
四国地区	香川・愛媛・徳島・高知	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
九州地区	福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。
	沖縄県	○	○	○		下落	強含み	需要家側の値引き要求から小幅下落。足元では円高、原油高に転じ、先行き強含み。

※供給状況:供給できる場合は「○」、供給できない場合は「×」で表示。

※運搬車両:ローリー車が充足している場合は「○」、一部、運搬車両不足により供給が遅れることがある場合は△、運搬車両の手当てが出来ないまたは、運搬ルートが確保できない場合は「×」で表示。

※運搬経路:震災前までに行っていた運搬ルートに変更が無い場合は「○」、運搬ルートに変更がある地域が一部生じている場合は「△」、運搬ルートの変更を余儀なくされている地域がほとんどの場合は「×」で表示。

④その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

昨年未までは、円高に加えて、年度当初比では原油価格も安値で推移していたことから、需要家側はストアス価格の値下げ交渉を展開。販売側では輸送コストの上昇などを理由に現行価格維持の姿勢を崩していなかったが、年度末を迎えて下期トータルでの原油調達コスト等の見通しが明らかになったことから、徐々に抗しきれなくなり小幅ながらストアス価格は下落。

ただ、足元では円安・原油高に転じており、今後のストアス価格上昇は避けられない見通しで、先行きは強含みで推移する公算が大きい。

## 【アスファルト混合物供給情報】

### ①各県(地域)への供給状況について

2012/3/8確認

地区	都道府県	供給動向					価格動向		
		出荷状況	燃料		運搬車両	備考	現状	先行き	変動要因
			工場設備	運搬車両					
北海道	北海道	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
東北地区	青森県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	岩手県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	宮城県	前年並以上	○	○	△	ガレキ処理、復旧工事等が本格化するなか、運搬車両の需給にひっ迫感が強まっている。	横ばい	強含み横ばい	運搬車両の需給ひっ迫により、運搬費が強含みで推移。
	秋田県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	山形県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	福島県	前年並以上	○	○	△	退避指示により稼働していないプラントが2工場ある。	横ばい	強含み横ばい	運搬車両の需給ひっ迫により、運搬費が強含みで推移。
関東地区	茨城県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
北陸地区	新潟・富山・石川・福井	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
中部地区	静岡・愛知・岐阜・三重	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
近畿地区	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	減少	○	○	○		一部地区で強含み	横ばい	販売側では、原燃料の高値推移、出荷減に伴うコスト負担増等から売り腰を強め、和歌山で価格上昇。
中国地区	岡山・広島・山口・鳥取・島根	減少	○	○	○		一部地区で強含み	横ばい	販売側では、原燃料の高値推移、出荷減に伴うコスト負担増等から売り腰を強め、鳥取で価格上昇。
四国地区	香川・愛媛・徳島・高知	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
九州地区	福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
	沖縄県	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	

※出荷状況：前年並み・前年以上に出荷がある場合(対前年95%以上)は「前年並以上」、前年より出荷が少ない場合(対前年80～95%)は「減少」、前年より出荷が少ない場合(対前年80%未満)は「大幅減」で表示。

※燃料(工場設備)：工場設備の稼働に対するエネルギーが充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※燃料(運搬車両)：主に軽油が充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※運搬車両：混合物出荷のためのダンプトラックが充足している場合は「○」、一部、手当てしづらい日が生じている場合は「△」、十分に手当てできない状態の日が多い場合は「×」で表示。

### ②その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

出荷量は、中部以西でも前年水準に近づいてきているものの、依然として低調な水準で推移。年度末の需要期を迎えたが、現在まで、アスファルト、燃料について供給が滞るなどの問題は生じていない。ただ、需要集中によるアスファルトおよびアスファルト混合物輸送のローリーやダンプの需給はひっ迫しており、供給面での懸念は払拭されていない。

ストレートアスファルト価格は小幅ながら下落したが、足元では円安・原油高に転じており、今後の価格上昇は避けられない見通し。このため、アスファルト混合物メーカーでは、ストアス価格や製造及び運搬に関わる燃料コストの上昇分を価格転嫁する動きを強めるものとみられる。

## 【改質アスファルト供給情報】

### ①製造拠点(工場等)の状況について

2012/3/8確認

工場名		所在地	稼働状況	出荷状況	備考
日進化成	東北工場	岩手県	○	○	通常稼働中。
	関東工場	埼玉県	○	○	通常稼働中。
ニチレキ	青森工場	青森県	○	○	通常稼働中。
	仙台工場	宮城県	○	○	通常稼働中。
	千葉工場	千葉県	○	○	通常稼働中。
東亜道路	青森工場	青森県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	岩手工場	岩手県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	宮城工場	宮城県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	福島工場	福島県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	茨城工場	茨城県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	群馬工場	群馬県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	千葉工場	千葉県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	神奈川工場	神奈川県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	長野工場	長野県	○	○	震災前の状況に戻っている。
昭和シェル	瀝青化学 袖ヶ浦工場	千葉県	○	○	設備稼働、出荷に問題なし。
	三重プラント	三重県	○	○	設備稼働、出荷に問題なし。

※稼働状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼働していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」、燃料、原材料がなく出荷できない場合は「△」で表示。

### ②その他(今後懸念される事項等)

原料となるストレートアスファルトの市況下落、および販売競合により、改質アスファルトの市況も下落。

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	型枠材	210 ～ 211	コンクリート 型枠用合板	3月6日	供給体制は平常通りとなっている。被災地区の需要は比較的好調だが、全国的に不需要期に入っているなか、1月の入荷量が多かったことにより、需給はやや緩和。市況は弱含み推移となっている。	やや緩和	弱含み
共通資材	木材	226 ～ 229	仮設・土木用 木材	3月6日	復興工事向けの引き合いは見られるが、本格的な需要には結び付いておらず、荷動きは鈍い。このため、供給能力に問題はなく、材料供給は安定している。	均衡	横ばい
共通資材	木材	230 ～ 237	一般建築用 木材	3月6日	荷動きは好調であるが、大工職人の不足に伴い工事量が制限されているため、結果的に材料の供給に支障が出るまでには至っていない。	均衡	横ばい
共通資材	塗料・石油製 品	250～252	石油製品	3月9日	中東情勢の緊迫化を背景とした原油急騰と円安によるコスト上昇を理由に、元売各社が卸価格を大幅に引き上げたため、市況は上伸。また、東日本大震災で被災したJX仙台製油所は3月中旬に稼働再開の見通し。 【軽油】元売の減産や製品輸出により市中の在庫量が減少する中、流通側が売り腰を強めたため価格は上昇。 【灯油】全国的な寒波により引き合いは活発で、需要期後半も流通側の販売競争は見られず、価格は強基調で推移している。	ややひっ迫	強含み
土木資材	軽仮設資材	254(販売) 278(リース)	仮設足場	3月8日	東北地区では東日本大震災復興工事向けの引き合いが増えてきたものの、現時点では供給能力に問題はない。 被災地以外の供給は平常どおり。	ややひっ迫	横ばい
土木資材	軽仮設資材	260 264	ブルーシート 土のう	3月8日	ブルーシート、土のうとも東日本大震災後、メーカー、販売店は在庫を積み増しており、供給能力に問題はない。	均衡	横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	各種 賃貸料金	265 ～ 273	建設機械器具 賃貸料金	3月9日	がれき撤去等の作業が落ち着きを見せ、需要は復旧作業向けに徐々にシフトする状況にある。資材運搬等のためのダンプトラックの需要は依然多く、他県からの搬入も見られる。 一方、発動発電機の引き合いは減少傾向にあり、需要は落ち着きを見せている。その他の建設機械・器具についても、ここ最近、全国大手事業所の新規購入がすすんだこと、震災向け機械の返却が増加したことなどにより、需給は均衡を保っている。	均衡	横ばい
共通資材	各種 賃貸料金	274 ～ 277	仮設鋼材 賃貸料金	3月9日	【鋼矢板・H形鋼・鋼製山留材・鋼製覆工板】 東北、関東地区を中心に下期物件および震災需要への荷動きが活発化しており、需給ひっ迫感は非常に強い。 各賃貸業者は、需要低迷を背景に従前から在庫量を圧縮してきており、いまだに震災需要の全体量が把握できないことから、大勢に在庫補充する動きは見られず、現状では西日本の各社工場から不足材料を供給しているもよう。一部賃貸業者で保有量の増加や、減少した償却材を補填する動きが見られ始めたが、年度末にかけて、このまま需給はタイトなまま推移しよう。  【敷き鉄板】 出遅れていた上期発注物件に加え、震災復旧工事の発注も集中したため出荷が急増しており、需給はひっ迫している。賃貸業者に在庫量を積み増す動きは見られず、当面、ひっ迫した状況は続く見通し。	ひっ迫	強含み横ばい
建築資材	内外装材	572	針葉樹 構造用合板	3月6日	被災した工場は、事業停止となった2工場を除いて稼働を再開しており、納期が3週間程度必要であった長尺品についても供給は平常通りとなっている。被災地区の引き合いは比較的多いものの、全国的に在庫量が増加していることから、市況は弱含み傾向となっている。	やや緩和	弱含み
電気設備資材	電線・ケーブル	612 ～ 613	600V 架橋ポリエチレン 絶縁ビニル シースケーブル(CV)	3月8日	復興需要向けに荷動きは堅調ながら、本格化はこれから。供給体制については、現時点では問題無く、平常どおりの供給が可能となっている。 販売筋では、復興需要本格化前に新価格体系への完全移行を目指しており、さらに売り腰を強める向きにある。	均衡	強含み横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
機械設備資材	配管資材	782	硬質ポリ塩化 ビニル管	3月9日	下水関連で荷動きがあるものの、震災復興関連の本格的な需要はまだ先であり、いまのところ供給体制に問題はみられない。	均衡	横ばい



東日本大震災 復旧・復興工事における主な工種の概況 市場単価(季刊「土木施工単価」「建築施工単価」掲載工種)

◆季刊「土木施工単価」

分類	工種	掲載ページ	確認日	市場動向・概況	先行き	
					需給動向	価格動向
土木工事 市場単価	鉄筋工 (手間のみ)	3 ~ 9	3月9日	被災三県(岩手、宮城、福島)の土木系の鉄筋工事は、国・自治体の発注が進み、工事量が徐々に回復してきている。沿岸部の復興需要はまだ本格化していないが、内陸部の災害復旧工事や新設・補修の一般構造物(河川、道路、橋梁、擁壁など)の工事が中心となっている。こうした中で、鉄筋工の労務不足は深刻で賃金の上昇と共に市況も岩手、宮城、福島で2~5%上昇した。当分の間、土木鉄筋工事は本格化する復興工事の需要と慢性的な鉄筋工の不足を背景に、強含みでの推移が続こう。	ひっ迫	強含み
港湾工事 市場単価	鉄筋工 (手間のみ)	414 ~ 417	2月27日	岩手、宮城、福島などの被災地域ではケーソン製作などの構造物製作が本格化するにつれて、鉄筋工不足が表面化している。職人確保が困難なため、関東などの他地域から呼び寄せるケースも多く、東北エリアでの一般的な賃金水準より高くなければ調達できなくなっているため、工事費相場も強含んでおり、2~5%程度の価格上昇となっている。当面この状況が解消されるとは考えにくく、強含み相場が続く見込み。	ひっ迫	強含み
	型枠工 (材工共)	422 ~ 425	2月27日	港湾構造物製作関連工事が増加してきたことで、型枠工の不足とともに鋼製型枠がひっ迫する場面も見られる。型枠材は震災時の津波で使用できなくなったものも多く、品薄感から調達コストの上昇を招いており、型枠工賃金の上昇と相まって2~7%程度の工事価格上昇となっている。例外的に2月下旬に設計労務単価が改定され、今後も3カ月毎の見直しが見込まれるなど、発注者側も継続的対応を取っており、当面は強含みでの市況展開が続く見込み。	ひっ迫	強含み

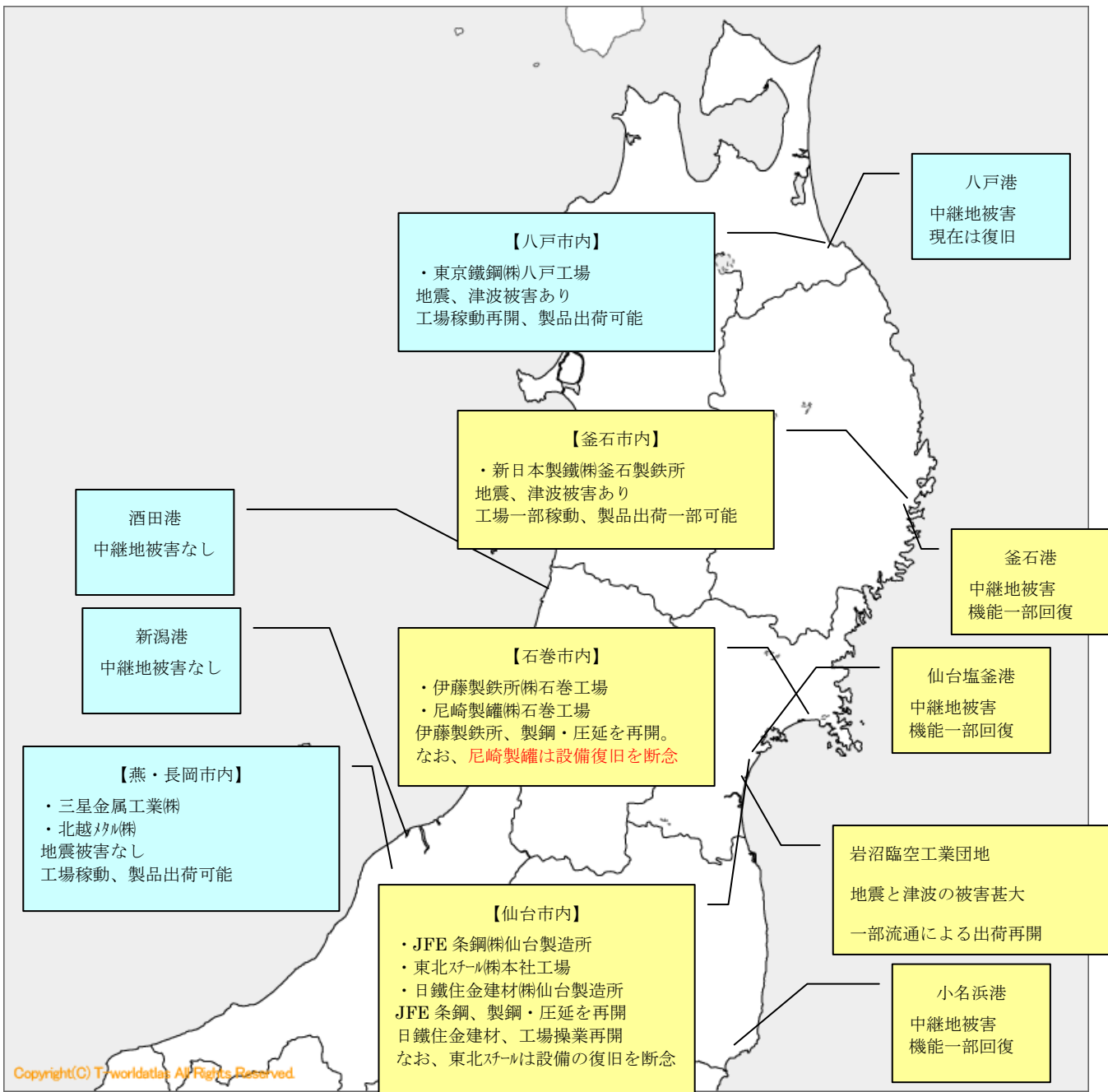
東日本大震災 復旧・復興工事における主な工種の概況 市場単価(季刊「土木施工単価」「建築施工単価」掲載工種)

◆季刊「建築施工単価」

分類	工種	掲載ページ	確認日	市場動向・概況	先行き	
					需給動向	価格動向
建築工事 市場単価	鉄筋工事 (手間のみ)	10 ~ 13	3月6日	被災地区(沿岸部)における復興需要は本格化に至っていないが、比較的被害の少なかった地区(内陸部など)では、病院や学校などの新設工事や補修工事、耐震改修工事などが増加傾向にある。 慢性化している職人不足に対して、他地域からの協力体制が見られるものの、依然として需給はひっ迫しており、総合工事業者側では職人手配に苦慮している。これに伴い市況は上伸している。 先行き、復興工事の需要が本格化すれば、さらに需給はひっ迫する見通し。	ひっ迫	強含み
	型枠工事 (材工共)	18 ~ 21	3月6日	学校や病院等の緊急を要する改修工事案件が落ち着くにつれ、沿岸地域以外でも住居やオフィスビルの改修工事や延期されていた新設工事案件が続々と動き出しており、型枠工の不足が続いている。 専門工事業者側では、職人確保のため、他地域からの職人の応援を受けて対応している場合も見られるなど、コスト高から値上げ要求は強い。総合工事業者側でも、工期遅れの懸念などから、これを受け入れざるを得ない状況で、市況は上伸している。 職人不足の状況は今後も解消される見込みがなく、しばらくは強含みの状況が続く見通し。	ひっ迫	強含み

# 鉄鋼製品工場稼働マップ（2012.3.9 現在）

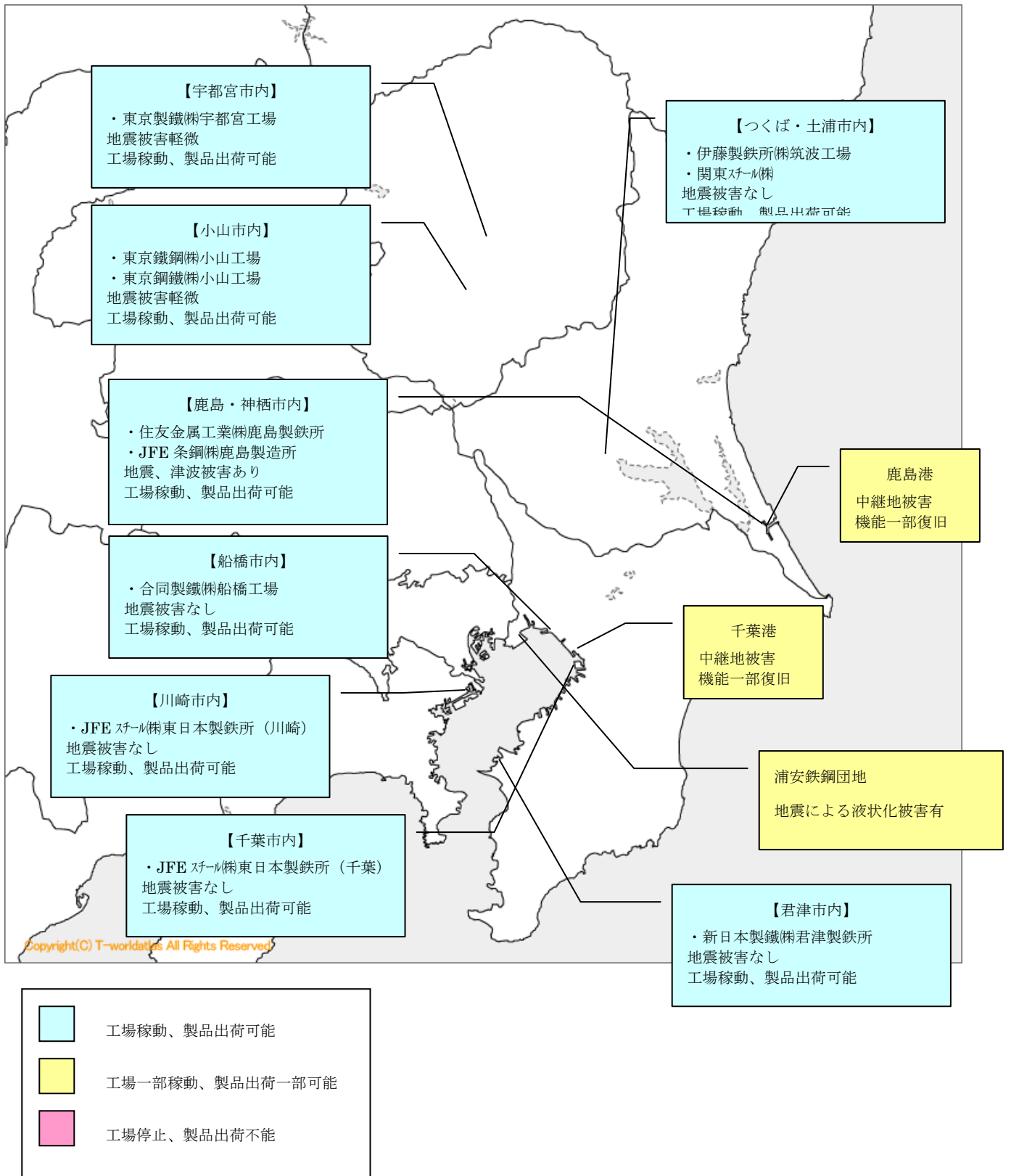
## 東北・北陸地区



	工場稼働、製品出荷可能
	工場一部稼働、製品出荷一部可能
	工場停止、製品出荷不能

(財) 経済調査会作成 (2012.3.9 現在)

# 関東地区



(財) 経済調査会作成 (2012.3.9 現在)